

脳動脈瘤が
見つかったら問 稲城市保健センター
☎ 378-3421

脳ドックは脳の病気の早期発見と治療を目的とした検診です。症状の無い方が受ける全身の健康診断と同様なのです。

1983年、世界に先駆け、日本で行われるように

なりました。脳にも多くの病気がありますが、特に死亡率が高いくも膜下出血の原因である脳動脈瘤を見つけることが大きな目的でした。その結果、くも膜下出血を起こす前に脳動脈瘤の治療する機会が増え、日本でのくも膜下出血の発生率や死亡数は減少しました。同時に、脳動脈瘤が破れると、くも膜下出血を起すことも多くの国民に知られるようになり、怖い病気として受け止められるようになりました。それ故、脳ドックを受診され脳動脈瘤が見つかった場合、患者さんは新たな心

配の種を抱えこむことになり、不安のため自ら日常生活を制限されている方もおられます。不安を解消するためには脳動脈瘤に関する正しい理解が必要です。

脳動脈瘤は100人中2〜6人に見つかり稀な病気ではありません。しかし、くも膜下出血を起せば約半数の方は死亡されます。従って、治療が必要な動脈瘤なのかどうかを決定する必要があります。治療が必要となるのは破裂しやすい動脈瘤で一般的には、①瘤の大きさが5mm以上、②こぼこした不整形の瘤、③経

過観察で大きくなったり、形が変わってきた瘤、④破裂しやすい場所の瘤です。このようなタイプの脳動脈瘤はそんなに多くはありません。その他の動脈瘤の場合、ほとんど日常生活に制限はありませんが脳神経外科医による指導を受けることが推奨されます。

稲城市では、国民健康保健に加入している方が医療機関などで自主的に脳ドックを受診した場合、その検査にかかった費用の一部を助成しています。

稲城市医師会 村上 秀樹